

color プロパティ

color

文字の色を指定する

書き方

セレクタ { color: ① }

値の指定

①カラー値

適用される要素

すべて

継承

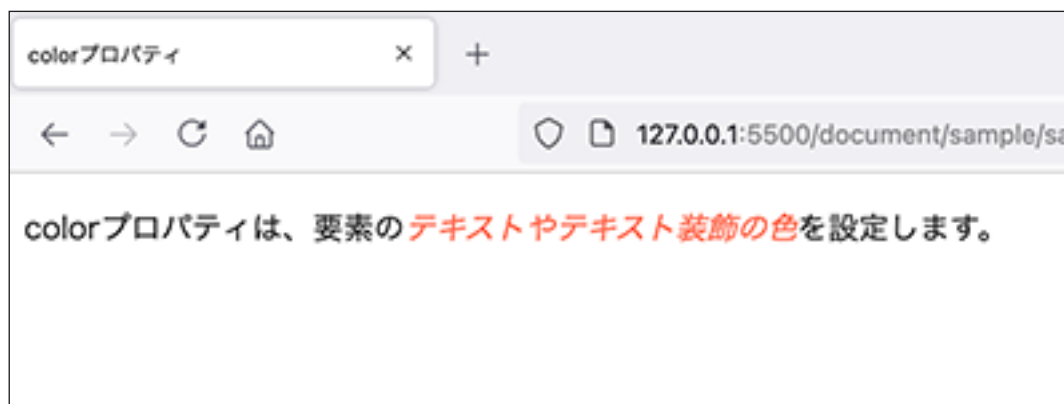
あり

文字の色を指定するときは、景の色とのコントラスト比を考慮しましょう。Web コンテンツアクセシビリティガイドラインでは、文字と背景色のコントラスト比として 4.5:1 以上（見出しのような大きめのテキストの場合は 3:1 以上）が推奨されています。

サンプル

```
<p>  
  colorプロパティは、要素の<em>テキストやテキスト装飾の色</em>を設定します。  
</p>
```

```
@charset "UTF-8";  
body {  
  color: #111;  
}  
em {  
  color: tomato;  
}
```



font-family プロパティ

font-family

フォントを指定する

書き方	セレクタ { font-family: ①, ... ② }		
値の指定	①フォント名（複数指定する場合は、「 , 」で区切る） ②総称フォント名		
適用される要素	すべて	継承	あり

ユーザーの環境に用意された初めに一致したフォントで表示されます。フォント名にスペースが含まれる場合は、「"」や「'」の引用符で囲む必要があります。一番最後に総称フォント名を指定しておくことで、指定されたフォントに一致するものがなかった際に、同じフォントカテゴリーから代替されます。

総称フォント名

フォント名	説明
serif	止めや払い、セリフを持つフォントです。日本語では明朝系に当たります。
sans-serif	平たい角の端を持つフォントです。日本語ではゴシック系に当たります。
monospace	すべての字が同じ幅（等幅）を持つフォントです。
cursive	筆記体のフォントです。日本語では草書・行書体のフォントに当たります。
fantasy	装飾的、表現的なフォントです。

サンプル

```
<h1>フォントの指定</h1>
<p>
  総称フォントは、指定したフォントが見つからなかった場合の<br>
  代替となるため、一番最後に指定する
</p>
<h2>総称フォント</h2>
<ul>
  <li class="serif">明朝系</li>
  <li class="sans-serif">ゴシック系</li>
  <li class="monospace">等幅フォント</li>
  <li class="cursive">筆記体系</li>
  <li class="fantasy">装飾フォント</li>
</ul>
```

```
@charset "UTF-8";
body {
  font-family:
    "Helvetica Neue", "Helvetica", "Hiragino Sans", "Hiragino Kaku Gothic ProN",
    "Arial", "Yu Gothic", "Meiryo", sans-serif; /* iOS系 MacOS系 Windows系 総称フォント */
}
h1 {
  font-family: "Times New Roman", "M S P 明朝", serif;
}
.serif {
  font-family: serif;
}
.sans-serif {
  font-family: sans-serif;
}
.monospace {
  font-family: monospace;
}
.cursive {
  font-family: cursive;
}
.fantasy {
  font-family: fantasy;
}
```



font-style プロパティ

font-style

フォントのスタイルを指定する

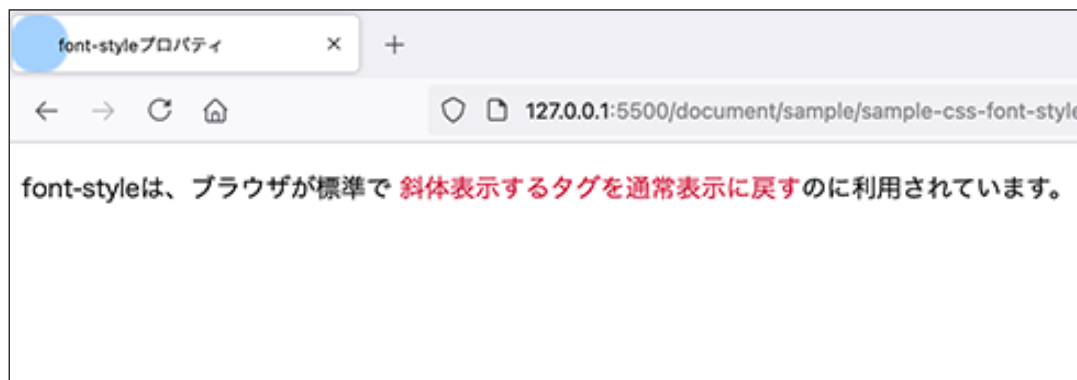
書き方	セレクタ { font-style: ① }		
値の指定	①normal（通常表示） italic（イタリック表示） oblique（斜体表示）		
適用される要素	すべて	継承	あり

フォントスタイルの中で、通常、イタリック、斜体のどれでスタイルを付けるかを指定します。

サンプル

```
<body>
  <p>font-styleは、ブラウザが標準で <em>斜体表示するタグを通常表示に戻す</em>のに利用されています。</p>
</body>
```

```
@charset "UTF-8";
em {
  color: #c03;
  font-style: normal;
}
```



font-weight プロパティ

font-weight

フォントの太さを指定する

書き方

セレクタ { font-weight: ① }

値の指定

①normal (通常表示) bold (太字表示) 100 ~ 900 (400 が normal 相当 700 が bold 相当)

適用される要素

すべて

継承

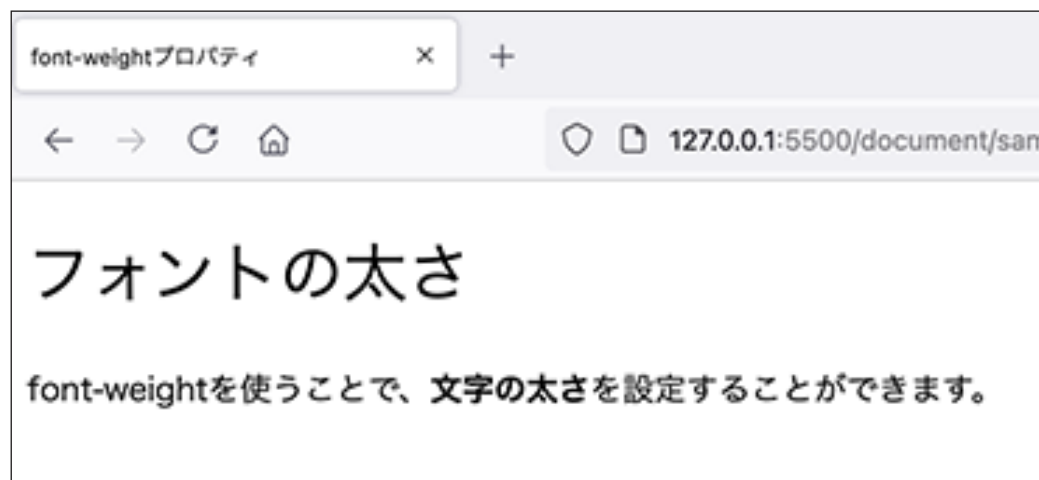
あり

フォントの太さを指定します。数値で指定する場合は、100、200、300、400、500、600、700、800、900 の 9 段階で太さを指定します。フォントに指定した太さで一致するものがない場合は、近似の太さにフォールバックされます。

サンプル

```
<body>
  <h1>フォントの太さ</h1>
  <p>font-weightを使うことで、<span>文字の太さ</span>を設定することができます。</p>
</body>
```

```
@charset "UTF-8";
h1 {
  font-weight: normal;
}
span {
  font-weight: bold;
}
```



font-size プロパティ

font-size

フォントの大きさ指定する

書き方	セレクタ { font-size: ① }		
値の指定	①単位付きの数値または% 相対サイズのキーワード 絶対サイズのキーワード		
適用される要素	すべて	継承	あり

フォントのサイズを指定します。

キーワード

絶対的サイズ

キーワード	説明
xx-small	medium より 3 段階小さいサイズで表示されます。
x-small	medium より 2 段階小さいサイズで表示されます。
small	medium より 1 段階小さいサイズで表示されます。
medium	ブラウザ規定の標準のフォントサイズで表示されます。
large	medium より 1 段階大きいサイズで表示されます。
x-large	medium より 2 段階大きいサイズで表示されます。
xx-large	medium より 3 段階大きいサイズで表示されます。

相対的サイズ

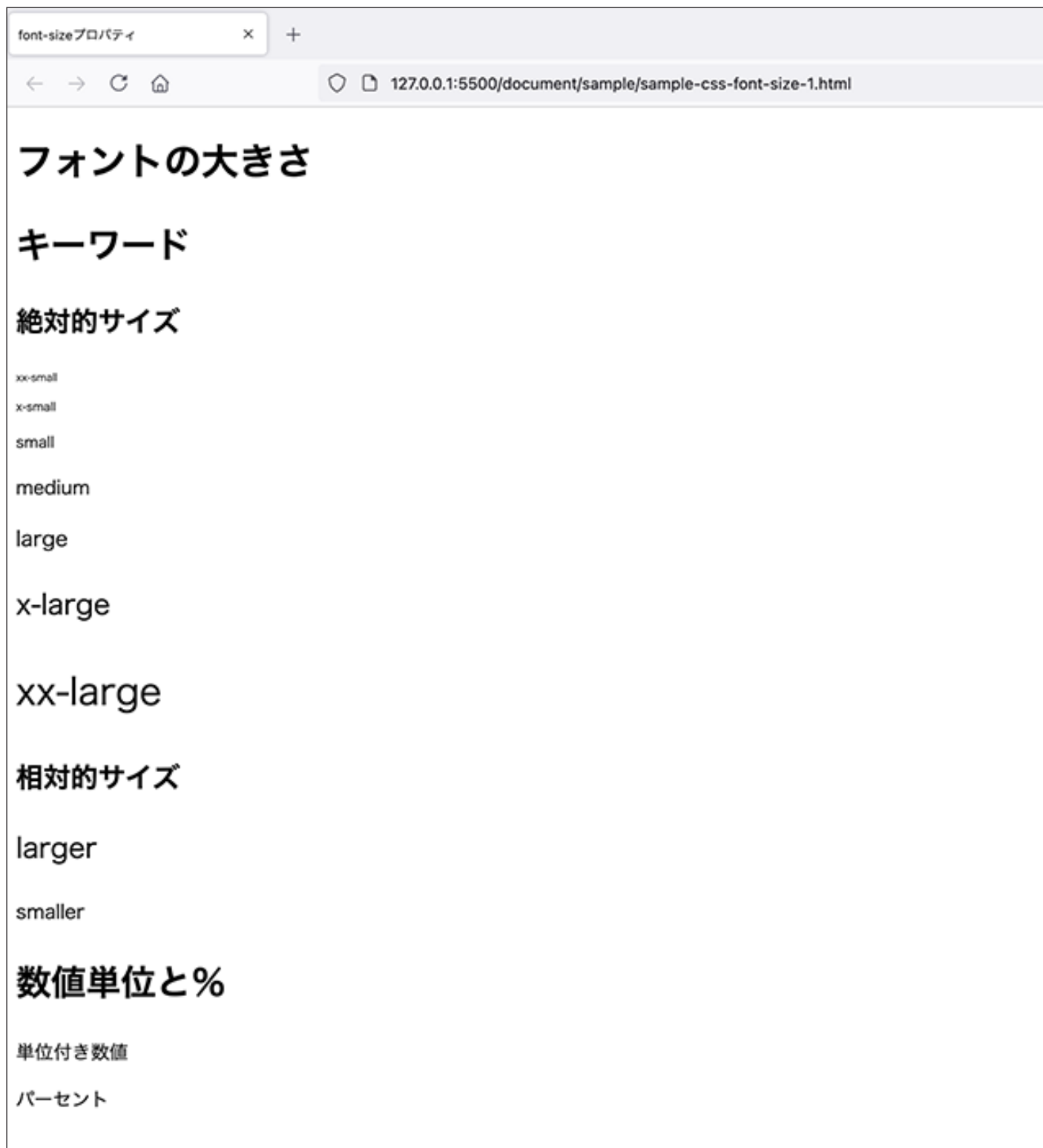
キーワード	説明
smaller	親要素より 1 段階小さいサイズで表示されます。
larger	親要素より 1 段階大きいサイズで表示されます。

アクセシビリティやメンテナンス性、レスポンシブによるマルチデバイス対応を考慮すると、em、rem、% のような相対単位によるサイズ指定が望ましいです。

サンプル

```
<h1>フォントの大きさ</h1>
<div class="wrap">
  <h2>キーワード</h2>
  <h3>絶対的サイズ</h3>
  <p class="xx-small">xx-small</p>
  <p class="x-small">x-small</p>
  <p class="small">small</p>
  <p class="medium">medium</p>
  <p class="large">large</p>
  <p class="x-large">x-large</p>
  <p class="xx-large">xx-large</p>
  <h3>相対的サイズ</h3>
  <p class="larger">larger</p>
  <p class="smaller">smaller</p>
</div>
<div class="wrap">
  <h2>数値単位と%</h2>
  <p class="lenght">単位付き数値</p>
  <p class="percent">パーセント</p>
</div>
```

```
@charset "UTF-8";
.wrap { font-size: 20px; }
.xx-small { font-size: xx-small; }
.x-small { font-size: x-small; }
.small { font-size: small; }
.medium { font-size: medium; }
.large { font-size: large; }
.x-large { font-size: x-large; }
.xx-large { font-size: xx-large; }
.larger { font-size: larger; }
.smaller { font-size: smaller; }
.lenght { font-size: 0.8em; /* 20pxの0.8倍 -> 16px */ }
.percent { font-size: 80%; /* 20pxの80% -> 16px */ }
```



font-variant プロパティ

font-variant

スモールキャップを指定する

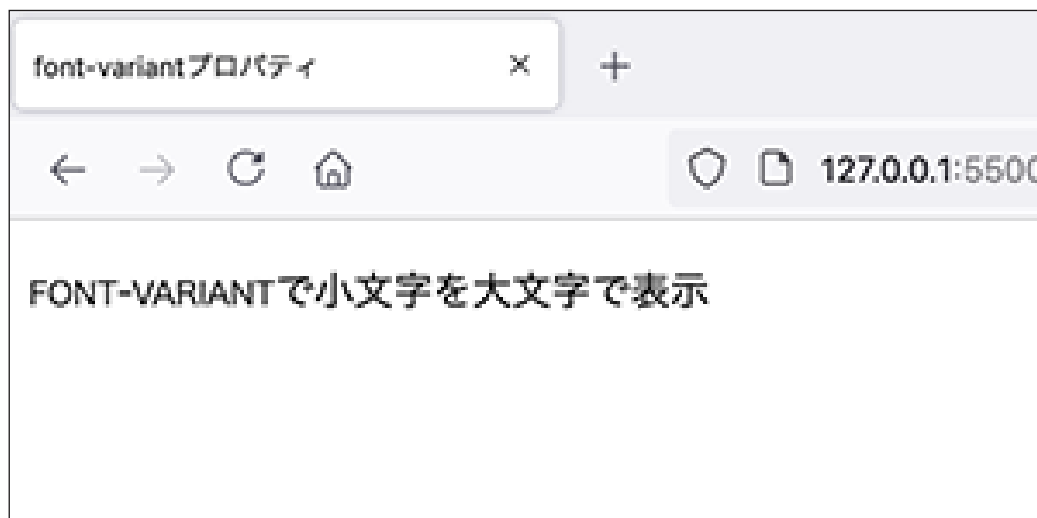
書き方	セレクタ { font-variant: ① }		
値の指定	①normal small-caps		
適用される要素	すべて	継承	あり

英文字の小文字をスモールキャピタル（小文字の大きさの大文字）で表示します。

サンプル

```
<body>
  <p>font-variantで小文字を大文字で表示</p>
</body>
```

```
@charset "UTF-8";
p {
  font-variant: small-caps;
}
```



line-height プロパティ

line-height

行ボックスの高さを指定する

書き方

セレクタ { line-height: ① }

値の指定

①数値または、単位付き数値

適用される要素

すべて

継承

あり

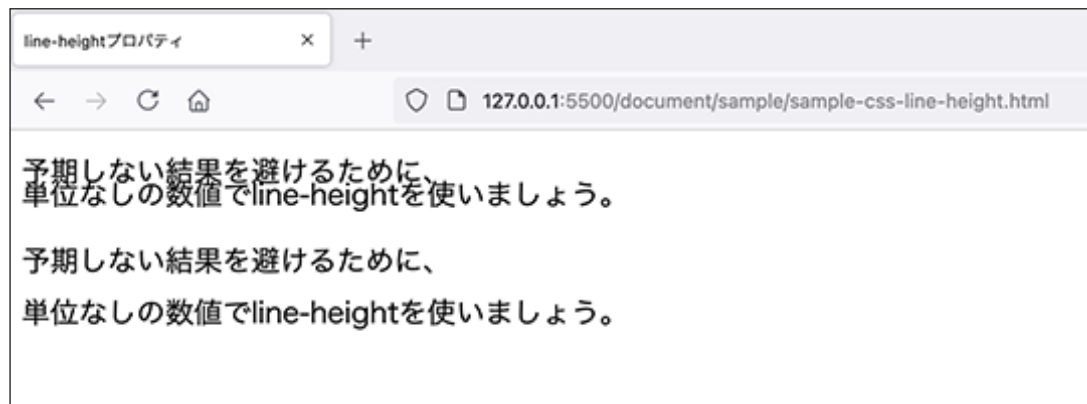
おもにテキストの行間の高さを設定するのに使用します。

数値で指定した場合は、要素のフォントサイズに数値を掛けたものが使用され、line-height の指定方法として望ましい方法になります。

サンプル

```
<p class="section1">
  予期しない結果を避けるために、<br>単位なしの数値でline-heightを使いましょう。
</p>
<p class="section2">
  予期しない結果を避けるために、<br>単位なしの数値でline-heightを使いましょう。
</p>
```

```
@charset "UTF-8";
.section1 {
  font-size: 20px;
  line-height: 16px;
}
.section2 {
  font-size: 20px;
  line-height: 1.8;
}
```



font プロパティ

font



フォントと行の高さを一括指定する

書き方

セレクタ { font: ① ② ③ ④/⑤ ⑥ }

値の指定

①font-style ②font-variant ③font-weight ④font-size ⑤line-height ⑥font-family

適用される要素

すべて

継承

あり

④font-size と⑥font-family は必ず指定しなくてはなりません。

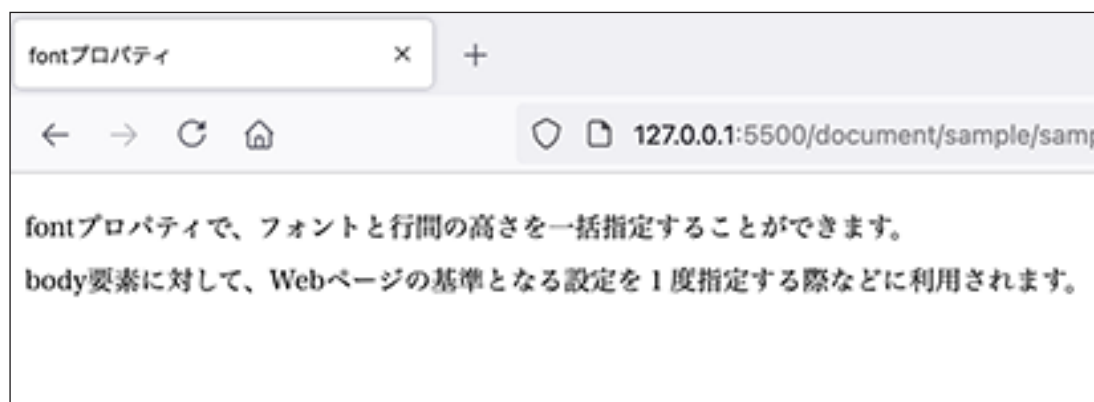
①font-style、②font-variant、③font-weight、⑤line-height は省略することができます。

①font-style、②font-variant、③font-weight の指定順序は決まっておらず、⑤line-height を指定する場合は、④font-size の後に「/」（スラッシュ）で区切る必要があります。

サンプル

```
<body>
<p>
  fontプロパティで、フォントと行間の高さを一括指定することができます。<br>
  body要素に対して、Webページの基準となる設定を1度指定する際などに利用されます。
</p>
</body>
```

```
@charset "UTF-8";
body {
  font: 14px/2 "M S P 明朝", serif;
}
```



text-indent プロパティ

text-indent



文章の 1 行目の字下げ幅を指定する

書き方

セレクタ { text-indent: ① }

値の指定

①数値または、単位付き数値

適用される要素

すべて

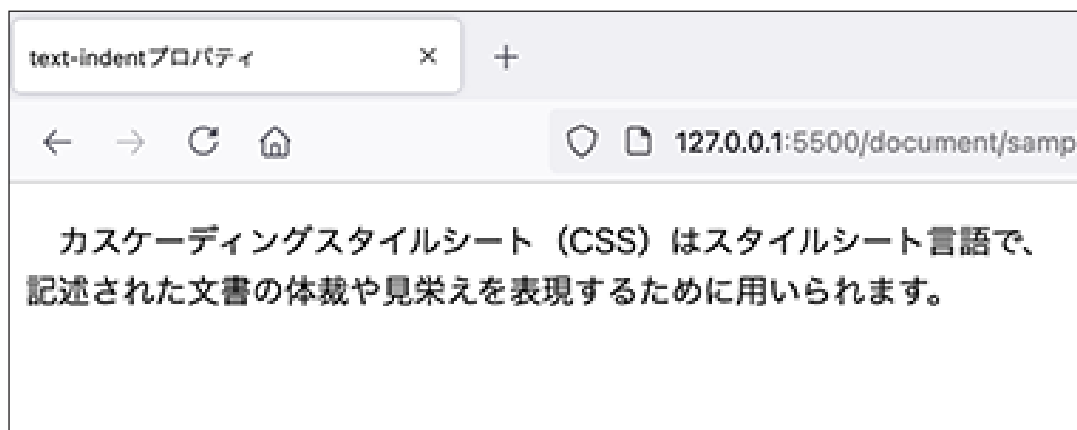
継承

あり

サンプル

```
<p>
  カスケーディングスタイルシート（CSS）はスタイルシート言語で、<br>
  記述された文書の体裁や見栄えを表現するために用いられます。
</p>
```

```
@charset "UTF-8";
p {
  text-indent: 16px;
}
```



text-align プロパティ

text-align

テキストの行揃えを指定する

書き方

セレクトタ { text-align: ① }

値の指定

①left（左揃え）center（中央揃え）right（右揃え）justify（両端揃え）

適用される要素

ブロック要素

継承

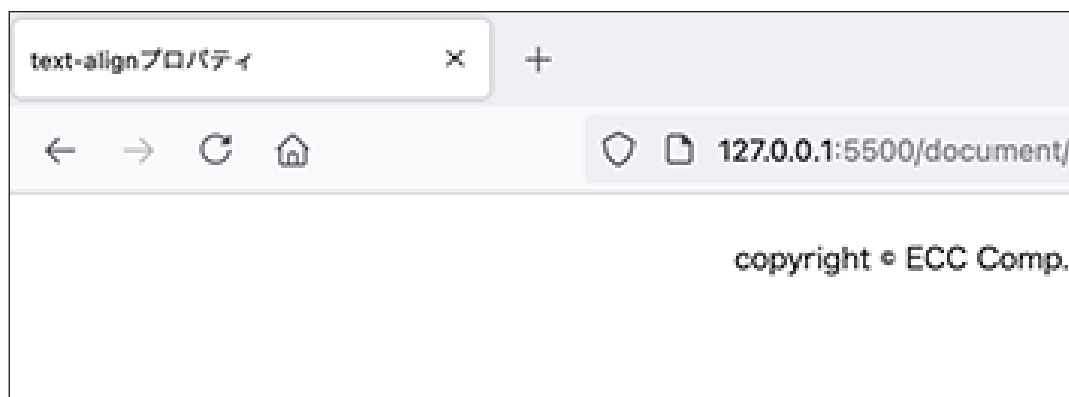
あり

ブロック要素または、表セルの横方向の揃えを位置を指定します。
あくまで、ブロック要素内の揃え位置を指定するため、ブロック要素をセンタリングするなどはできません。

サンプル

```
<p><small>copyright &copy; ECC Comp.</small></p>
```

```
@charset "UTF-8";  
p {  
  text-align: right;  
}
```



text-decoration プロパティ

text-decoration

テキストの装飾を指定する

書き方

セレクトア { text-decoration: ① }

値の指定

①none（なし）underline（下線）overline（上線）line-through（取消し線）

適用される要素

すべて

継承

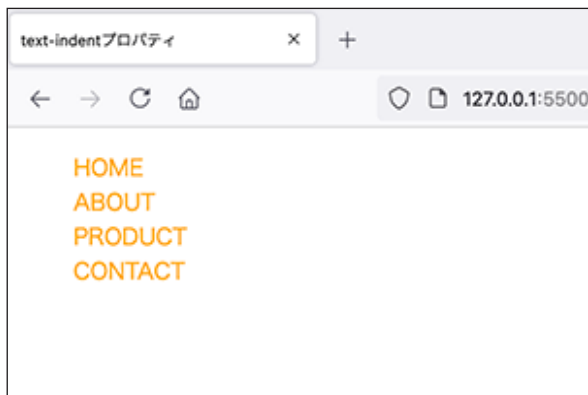
あり

テキストの装飾を一括指定します。複数の設定を指定する場合は、半角スペースで値を区切って指定します。アンカーな初めから装飾が付いている要素の装飾を外すのに良く利用されます。

サンプル

```
<ul>
  <li><a href="#">HOME</a></li>
  <li><a href="#">ABOUT</a></li>
  <li><a href="#">PRODUCT</a></li>
  <li><a href="#">CONTACT</a></li>
</ul>
```

```
@charset "UTF-8";
ul,
ol {
  list-style: none;
}
li a {
  color: orange;
  text-decoration: none;
}
```



letter-spacing プロパティ

letter-spacing

テキストの間隔を指定する

書き方

セレクトア { letter-spacing: ① }

値の指定

①normal 単位付きの数値または%

適用される要素

すべて

継承

あり

letter-spacing が正の数値の場合は、文字と文字の間が広がり、負の数値の場合は、文字と文字の間が狭まります。

サンプル

```
<p>
  正の値として大きすぎる場合、文字と文字が離れすぎるせいでバラバラの文字に見えてしまいます。<br>
  負の値として大きすぎる場合、文字と文字が重なり合うために何を書いてあるのか分からなくなってしまいます。
</p>
<p class="spacing">
  正の値として大きすぎる場合、文字と文字が離れすぎるせいでバラバラの文字に見えてしまいます。<br>
  負の値として大きすぎる場合、文字と文字が重なり合うために何を書いてあるのか分からなくなってしまいます。
</p>
```

```
@charset "UTF-8";
.spacing {
  letter-spacing: 0.2rem;
}
```

